

「中国の古代文明を訪ねて」

～全国埋蔵文化財法人連絡協議会主催 中国研修（H23年12月）参加報告を中心に～

（財）広島県教育事業団埋蔵文化財調査室 河村 靖宏

はじめに

四川省

- ・48万平方キロの面積と8500万の人口 宋代以降の「益・利・梓・夔」4州が四川の由来
- ・多民族エリア=チベット系彝族・羌族等の自治州・自治県
- ・成都（蜀）と重慶（巴）二つの中心
- ・三国劉備の国（蜀漢）
- ・加速する都市部の成長
- ・四川大地震から5年

* 広島県とは友好都市提携（県のホームページより）

2008年11月、大震災で家族を亡くした高校生を中心とした訪問団を三次高校が受け入れ交流活動を行った。正門には全校生徒が日中両国の小旗を振りながら出迎え、応援団長が歓迎のメールで迎えた。

2009年6月、本県から副知事と県議会議員訪問団が、友好提携25周年の記念行事に参加。行事に先立ち四川大地震の被災地である都江堰市の仮設住宅を慰問し、被災した子どもたちへの慰問品贈呈等を行った。



友好提携 25 周年記念会（成都市で）



四川大地震被災地の高校生（三次高校で）

四川省といえば…



四川名物料理（火鍋）





世界遺産の都江堰



碧峰峡のパンダ基地

平成23年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国研修の概要



10日 (土)	成都	専用バス	 <p>三星堆博物館</p>	<p>四川省文物考古研究院</p> <p>四川博物院(2009年オープン)</p> <p>永陵:五代の前蜀(907~925)の高祖王建の墓 墓室内に入って見学します。</p> <p>武侯祠:三国の蜀の丞相であった武侯・諸葛亮(181~234)を祀り、蜀の先主・劉備(161~223)の 照烈廟に隣接しています。</p>
11日 (日)	成都	専用バス	 <p>金沙遺跡出土品</p>	<p>三星堆遺跡:成都市の北40キロ広漢市の郊外にある 4800~2850年前の遺跡で、全盛期は商前期 (紀元前16世紀頃)から西周中期(紀元前9世紀) とされています。 出土物は三星堆博物館で見学します。</p> <p>金沙遺跡:約3000年前の殷代末から周代の遺跡。 黄金の仮面や多数の玉器・青銅器・象牙など 1000点あまりの国宝級の文物が出土。 出土物は金沙遺跡博物館で見学します。</p>
12日 (月)	成都	専用バス		<p>都江堰:戦国時代・秦の昭襄王の時に蜀郡太守の 李冰が築造した巨大な水利施設。 ユネスコの世界文化遺産に登録されています。 二王廟:都江堰の開削者である李冰とその子・李二郎 を祀る。</p>
13日 (火)	成都 雅安 成都	専用バス		<p>専用バスで雅安市へ(130km)</p> <p>雅安漢閣博物館</p> <p>雅安市博物館(新しくオープン)</p> <p>雅安碧峰峽パンダ基地</p>

I. 中国の古代文明について

① 四大文明 + 8 (計12) が歴史的な主要文明 → 12 - 7 + 3 = 8 が現在の文明圏 (ハンチントンの説)

『歴史的に主要文明は12個存在し、そのうち7つは現存せず、新たに3個が加わったと考えれば、現在の主要文明は8個である。』

主要文明が有する大洲の分布を示す世界地図
(サミュエル・P. ハンチントン『文明の衝突』より)

現存する主要な文明

1. 中華文明
2. ヒンドゥー文明
3. イスラム文明
4. 日本文明
5. 西欧文明
6. 東方正教会文明
7. ラテンアメリカ文明
8. アフリカ文明

ハンチントンは、日本文明成立を弥生～古墳時代に位置付ける。

消滅した7つの古代文明

- ①「メソポタミア文明」
- ②「エジプト文明」
- ③「クレタ文明」
- ④「古代ギリシャ・ローマ文明」
- ⑤「ピザンティン文明」
- ⑥「中央アメリカ文明」
- ⑦「アンデス文明」

② 黄河文明と長江文明

3000 夏商周文化
2000 仰韶文化
1000 二里头文化
770 西周文化
400 春秋文化
200 战国文化

新石器文化 [土器・玉器]
黄銅器文化

黄河文明

仰韶文化の魚文彩陶

竜山文化の高脚杯

夏王朝の1号宮殿の復元模型

長江文明

長江中流 - 紀元前12000年頃 栽培した稲
紀元前7000年頃 散播農法の最古の水稲

河姆渡文化 紀元前5000年頃 下流域では最古の稲作

良渚文化 紀元前5260年頃 青銅器以前の文明
多数の玉器の他に、絹が出土している。

三星堆遺跡 紀元前2600年頃～紀元前850年頃
大量の青銅器が出土し、目が飛び出た仮面・縦目の仮面・黄金の杖などがあり、また象牙なども集められており、権力者の階層が存在する。
長江文明と同じ文字は発見されていないが、「巴蜀文字」と呼ばれる文字らしきものがある。

長江文明

稲作

良渚文化を代表する反山遺跡出土の玉琮

河姆渡遺跡出土の稲もみ

II. 四川省の博物館

① 四川博物院⇒日本でいう国立博物館級の展示内容



移動博物館



青銅製の鐘



石刻



陶像

② 四川大学博物館⇒華西大学期（戦前）からの調査や羌族の展示



巴蜀文字(春秋期)



駱駝俑(唐代)



彝族皮甲(元代)



纏足(清代)

③ 金沙遺跡博物館⇒2001年発見の三星堆後の古蜀王国の中心地か



金沙遺跡博物館



調査風景と紹介記事



黄金マスクと太陽神鳥

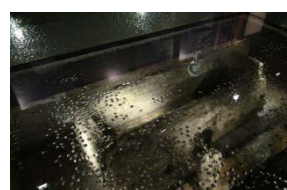


跪人像と立人像

④ 雅安博物館⇒四川省南西部・石棺に刻まれた関と茶馬古道の展示



石棺に刻まれた関と墓闕



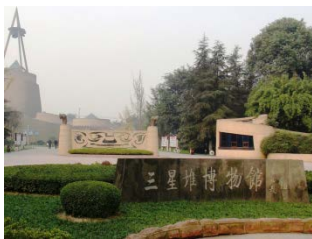
木棺墓？(水滴で見えにくい)



茶馬交易

Ⅲ. 三星堆遺跡と四川文明

①三星堆博物館



三星堆博物館



建物跡群など



青銅立人像



両手でポーズをとる像

②三星堆遺跡



三星堆遺跡位置図



三星堆の城壁



第1号祭祀土坑



第2号祭祀土坑

③四川文明の源流

1. 文献に見る古代蜀国

* 三星堆文化の創出

『蜀王本紀』(前1世紀) 前漢末 揚雄

『華陽国志』(3世紀) 三国から西晋の四川・雲南の歴史

・古蜀の王朝交替⇒蜀侯蚕叢 (目は縦)

→柏灌→魚鳧 社宇→鼈靈 (開明王朝)

<古蜀の最初の三人は伝説で最初の蜀王は杜宇か?>

初代 = 蚕叢 (さんそう) 蜀は古くから養蚕が盛ん

⇒墓所とされるのは羌族自治区

2代 = 柏灌 (はっかん) 柏の群生地である岷山

⇒羌族の間で特に強い柏樹信仰

3代 = 魚鳧 (ぎょふ) 鵜飼漁を生業とする漁撈集団

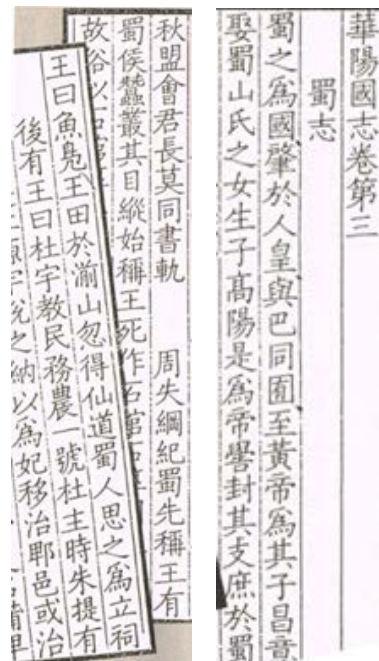
⇒鵜飼集団の祭神

* 三星堆文化の担い手

⇒岷江～鴨子河流域の鵜飼技術を習得した氏族漁撈集団

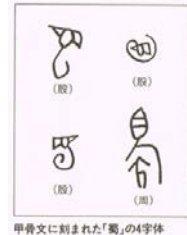
杜宇 (とう) ⇒ 三星堆にあった太陽の木を奉じ太陽神を祀る

鼈靈 (へつれい) ⇒ 開明王朝は十二世続き、前 316 年に秦の恵文王に滅ぼされる

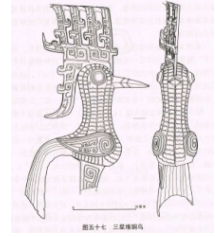


2. 三星堆遺跡の特徴

- ・「目」に対する独特の敬意 「縦目」「とび出た目」
- ・「手」に対する誇張と神格化 「手のポーズ」
- ・「鳥」に対する崇拝 「巨大神樹の鳥」「人頭鳥身像」
- ・「樹木」に対する崇拝 「神器や祭器のついた神樹」



甲骨文に刻まれた「蜀」の4字体

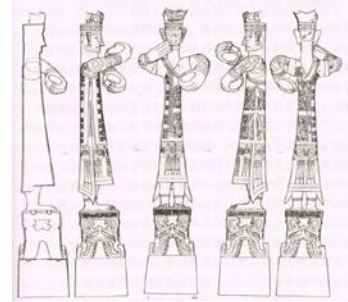


三星堆出土の青銅器

- ・青銅立人像（262センチ・重さ180キロ）
獣面冠をかぶり、長いガウンを三重に着用
両腕を胸前に丸く抱え、手に供献物を握る？



王あるいはシャーマン（呪術師）か



- ・大型縦目仮面
（高さ64.5センチ、幅1.38メートル）
突起した眼球 = 千里眼
長く伸びる耳 = 順風耳
「華陽国志」の蜀志 “有蜀侯蚕叢，其目縦”



- ・青銅神樹（384センチ）
宇宙の中心にある「天に通じる梯子」
人間と神の間を結び付ける仲介者
蜀族が国の創建時に建てた社樹の祭祀か？



3. 三星堆文化の謎

- ・独自性

第Ⅰ期（BC 2740～2070年）黄河と異なる土器文化

第Ⅱ期（BC 2070～850年）3王朝 黄河流域と交流

中原の青銅遺物は、神に捧げる儀式用の供献器類が圧倒的に多い。＝唯一神「天」の思想

三星堆の青銅遺物は、供献具の他に神や人間の造形、動植物の造形が多い。＝「偶像崇拜」の思想

- ・祭祀をした後に埋めた土坑なのか？

火を受けているものが多く、一度きりというのは不自然

外敵に襲撃される前に自ら破壊して地中に隠したのか

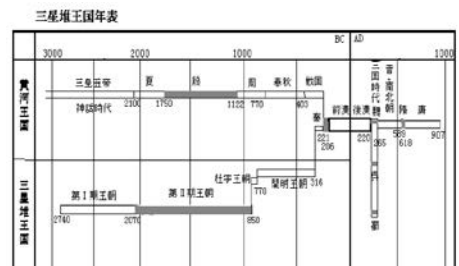
- ・なぜ急に消滅したのか？

杜宇の王朝から金沙遺跡の時代に位置づける説もある

- ・三星堆文化の担い手は誰か？

日本にも影響を与えた長江～雲南地域の文化・民族に注目

チベット系民族居住地域にルーツをたどれるものが比較的多い





チベット・甘肅地域の太陽をモチーフとした図案



チベット族の頭上の装飾



成都近隣の古蜀文化 遺跡位置図 (「四川と長江文明」より)

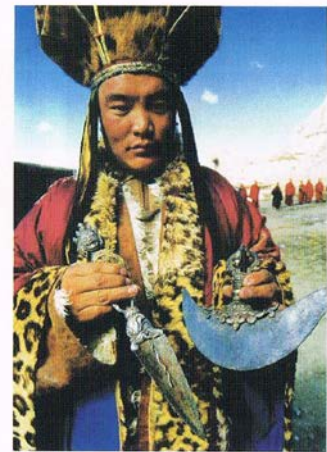


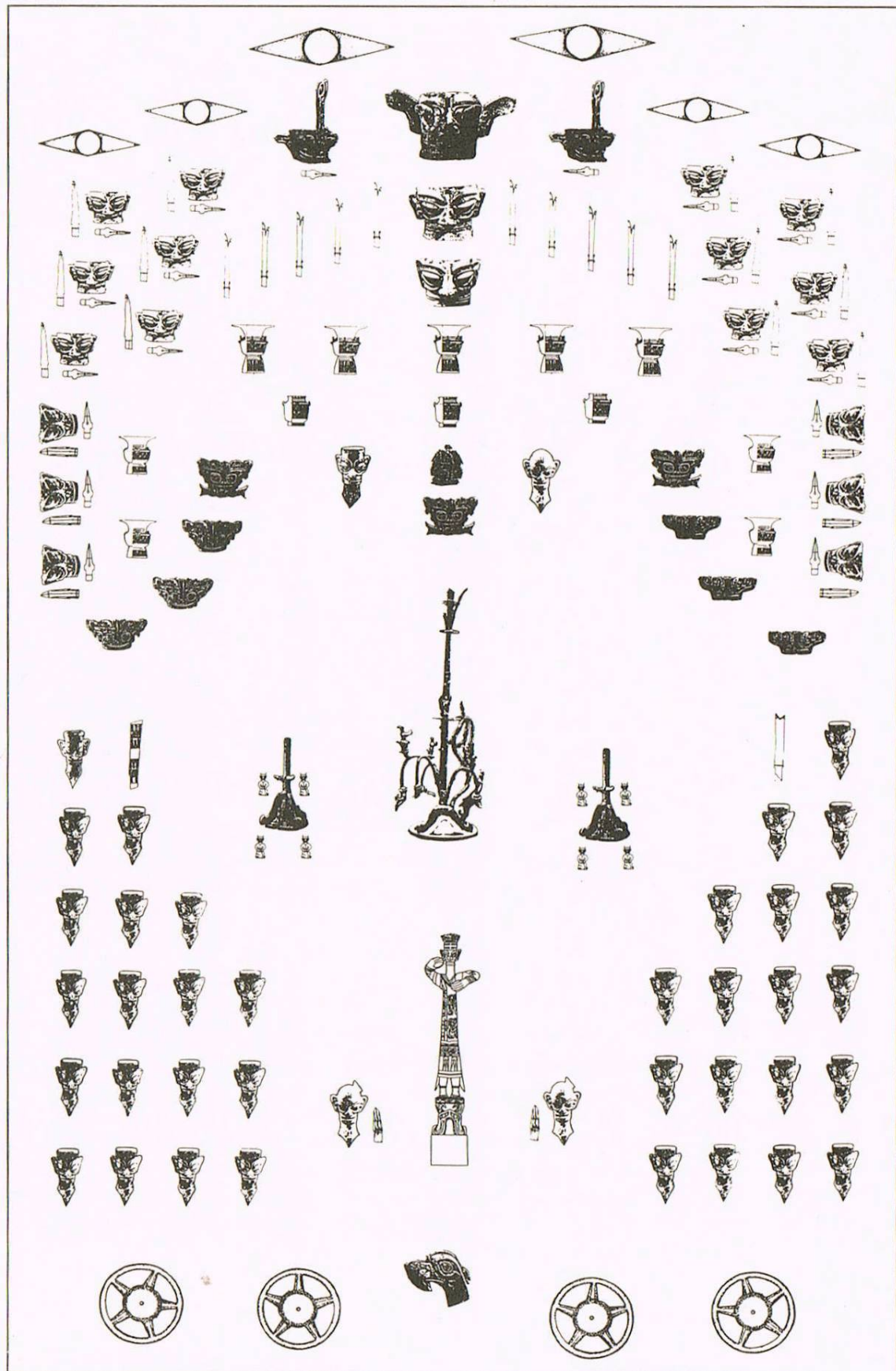
图19-2 今苯教高僧作法姿勢



图19-3 纳西族东巴作法

チベット族僧侶の作法

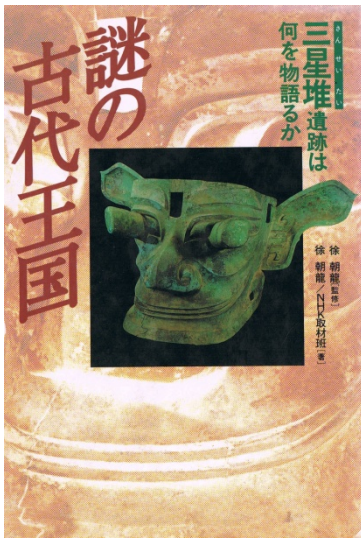
青銅器類の相関関係から推定した神殿（祭壇）の青銅器配置図（「謎の古代王国」より）



古代巴蜀略年表（「四川と長江文明」より部分抜粋）

<p>前一六〇〇年 前一五〇〇年 前一二五〇年</p>	<p>商（殷）王朝成立 殷の武丁、しばしば巴国を伐つ</p>	<p>三星堆第二期文化 三星堆に城壁が築かれる。杜宇の城か この頃、蜀で養蚕盛行。巴人、渝水流域に作邑 三星堆第三期文化。この頃、蜀国、陶国と連合して殷に抵抗 この頃から氐人、四川西部に広がり、湍江で鵜飼を行なう 三星堆第四期文化 成都北郊に十二橋文化 巴国および庸・蜀・羌・髳・微・盧・彭・濮人、武王伐殷に参加。武王、巴に宗姫を封じ、子爵とす（『華陽国志』） 杜国、陝西に移封。三星堆放棄され、十二橋文化が三星堆文化に替わる</p>	<p>縄文文化中期</p>
<p>前六七六年 前六五一年 前六三二年 前六一一年 前五〇〇年 前四七七年 前四五一年 前四四一年 前四一六年 前四〇三年</p>	<p>齊の桓公、覇者となる 晋の文公、覇者となる 韓・魏・趙、晋を分割し、諸侯となる。 これより戦国時代</p>	<p>巴、楚を攻めるも、翌年楚都郢の郊外で大敗。この頃、成都北の金堂県で治水事業が行なわれる。蜀の開明王朝成立か 巴・楚・秦、庸を滅ぼす。このとき巴は魚邑（いまの奉節）を併合 この頃、長江下流で呉・越両国激しく争う 巴、楚を伐つも大敗 秦、蜀を伐ち、南鄭を占領 南鄭、秦に反して蜀に復帰 この頃、開明王朝成都に奠都 この頃、羌人、岷山を越えて四川西部に進入</p>	<p>縄文文化晩期 弥生文化前期。水稻栽培始まる。この頃、中国より鵜飼伝わる 弥生文化中期。高床式住居発生</p>

参考図書



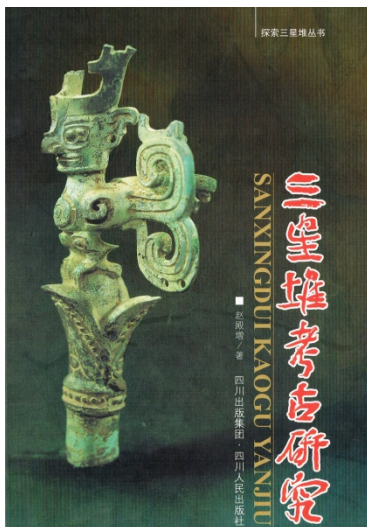
①「謎の古代王国」
-三星堆遺跡は何を物語るか-
除 朝龍
NHK 出版 1993



②「四川と長江文明」
古賀 登
東方書店 2003



③「図説中国文明史 2」
-文明の原点-
稲畑 耕一郎 監修
創元社 2007



④「三星堆考古研究」
趙 殿增
四川人民出版社 2004



⑤「揭秘古蜀人的渊源」
-三星堆、金沙遺址と藏族文明-
得榮
四川出版集團 2010



⑥「青銅之光耀三星」
刘家旺 他
四川美術出版社 2001

- ⑦「チベット諸族の歴史と東アジア世界」 川勝 守
- ⑧「中国の歴史を知るための60章」 並木頼壽・杉山文彦
- ⑨「世界史のなかの縄文文化」 安田 喜憲
- ⑩「三星堆」-中国5000年の謎 驚異の仮面王国-

- 刀水書房 2010
- 明石書店 2011
- 雄山閣 1987
- 朝日新聞社 1998